

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500774		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウスごらく		
所在地	愛知県名古屋市名東区極楽二丁目232番地		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	令和3年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2371500774-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2371500774-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和3年10月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人尊重した暮らしができるように思いや意向の把握に努め、自分らしく自由でのびのびと生活ができ、利用者主体の生活ができるように支援しています。  
 家庭的な雰囲気の中で、職員一人一人が利用者と生活を共にしていることを意識してゆっくりと関わりを持つようにし、言葉にならない声を拾えるように努め、居心地の良い温かい生活や安心、安全な生活が送れるよう取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常支援の中で常に基本理念(方針)を意識し、自分たちの言動一つ一つが理念に沿ったものなのか互いに確認し合いながら共通認識となるよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外掃除やゴミ出し、散歩等の外出時に率先して挨拶をし、職員はその仲介をして顔馴染みの関係性を構築している。道に迷った利用者を近所の方が事業所まで送ってくださったこともあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外壁に「認知症ケアについて何でもご相談ください！」という看板を設置したことにより、地域の方の訪問や問い合わせが増えた。気軽に話ができる相談場所となれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、電話連絡や書面にて開催している。活動報告や意見交換と共に2ヶ月ごとに「目標達成計画」の進捗もあわせて情報共有し、レベルアップに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや民生委員と定期的に連絡を取り、協力関係を築いている。現場の状況や取り組みについて伝え、時には要望を出している。また、こちらが力になれることがないか情報共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開かれた生活環境を謳っており、自由に出て行ける環境づくりをしている(コロナ禍の為、散歩程度)。利用者の人権を守ることを基本とし、何が拘束になるか具体的に話し合い、職員間の意識を統一している。言葉一つ一つを大切にしてお互いに当たるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りや話し合いの場を設け、普段何気なく行っている関わりが虐待に当たるか否かを話し合い、ヒヤリハットの活動を積極的に行い見過ごし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修等で学ぶことができる。利用者の状況に合わせ、必要なものを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時等は個別に面談をし、理解や納得を得よう努めている。また、随時不安や疑問点の解決ができるような間柄を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でこちらから積極的に話ができる機会をつくり、気軽に相談し合える関係性づくりを大切にしている。そこからサービスの質の確保と向上に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員を気に掛け、話がしやすい環境づくりに努めている。難しいことであれば納得してもらえよう話をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の取り組み姿勢等、努力を評価し、向上心に繋げている。勤務形態も無理することのないよう個々の様子や状況を見ながら反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握し、課題に沿って他事業所への研修を行っている。自施設に限らず様々な人と問題を共有することで感性を養っている。また、立場や経験に応じた外部研修の機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として積極的に全国の同業者との交流機会を職員に推進し、広い視野や見識を得ることでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心していただけるよう気持ちを受け留め、共に考えて悩みに向き合っている。その積み重ねにより、信頼関係を築き、話し易い関係性を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居申し込みの面談時にじっくり時間を掛けて話に耳を傾け、可能な限り家族の要望を形にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と情報を共有し、しっかりと意思を受け留め、必要な支援を見極めていく。また、必要に応じて他の介護サービスについての説明や提案をすることで様々な選択肢の中から家族と共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や他利用者を含め、生活を共にする家族のような存在と位置づけ、互いに支え合って意見を言い合い、同じ立場で生活をしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には職員全員で明るく元気に迎え入れ、本人と家族が安心して過ごせる空間づくりをしている。面会制限がある時には、ガラス越しで顔を合わせたり、テレビ電話を繋いだりしながら家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外部の人との関わりが難しくなっている中でも本人が忘れてしまわないよう、利用者に寄り添って昔話を聞いている。また、同法人の他ホームの利用者との関係も継続できるよう感染対策をしたうえで交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や利用者同士の関係性を把握し、互いが自然と相談しながら助け合える環境づくりに努めている。揉め事がある時には悪い印象で終わることのないよう職員が仲立ちし、関係性の修復にも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時に限らずサービスが終了しても、築いてきた関係性を大切に、気軽に立ち寄って話や相談ができるよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動には全て意味があると考え、常に疑問を持ち、本人の本心はどこにあるのか見極め、職員間で話し合いをし、検討を繰り返し行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報に加え、入居後の本人や家族との対話から多くの情報を得ることでその人らしさを知り、振り返ることができる状況をつくっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルに合わせた支援に努めている。その中で利用者同士できることを探し、認め合い、その方の有する力が発揮できる環境をつくっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化や気付いたこと等の情報や意見を出し合い、アセスメントやモニタリングを行い、現状把握して介護計画に反映させている。介護計画に沿った支援の手法を増やしていけるよう職員は常に考え、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や職員間のノートに日々の様子等を記録し、日々変化していく細かな状況の把握と情報共有に努めている。統一された支援をしていけるよう話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応じ、ショートステイや共用型デイサービスの受け入れを積極的に行っている。また、通院等による外出の同行支援や理美容、歯科、マッサージ等の様々な支援やサービスが利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、地域との直接的な関わりが絶たれている。散歩はマスクを着用し、予防しながら実践している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診は月に2回あり、24時間を通して連携体制ができています。また、本人や家族からの希望があるかかりつけ医との情報共有にも努め、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の検診時含め、電話での状況報告や連絡、相談が常にでき、利用者から医師や看護師に直接相談できるよう仲立ちもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為、面会ができず、本人と直接話をすることは出来ないが、家族や病院との連絡をこまめに取って情報共有し、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び、状態変化時に重度化した場合の意向確認を行っている。看取り介護を特別なことと考えず、最期の時までその人らしさを形にすることができるよう日々思いを引き出す関わりに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や書面で学び得たものと現場での経験により、より良い方法を導き出して対応している。次に繋がる判断力や実践力を身につけられるよう常に振り返りをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定し、年2回避難訓練を実施している。自ら避難できるよう動線や避難場所の確認等、主体性を持ち、取り組んでいる。災害時には全国ネットワークの仲間の支援を受けられる体制づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した細かな配慮に心掛けている。常に一人の人として扱い、支援が作業とならないよう職員同士で振り返り、確認合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員だけの関係だけでなく、利用者同士の関係性構築に尽力し、自由に思いや意見を言い合える雰囲気づくりに繋げている。また、自己決定できるよう選択方法にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースと生活を大切にしつつ自然と他者との活動が生まれる環境づくりに努めている。日々の生活から共同生活をしていることを意識付け、自分らしい暮らしにプラスα、他者と共に生活することに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや拘りを大切に、着替え等も自己決定できるよう支援している。訪問理美容では美容師さんとの馴染みの関係性も生まれ、希望等も話し易い状況がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今ある食材で何を作るか、どんな味付けがいいか話し合いながら調理している。また、食べたい物があれば買い物に行き作り、最初から最後まで利用者主体で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の時はもちろん、その他でも利用者同士が薦め合って水分を摂っている。また、利用者のその時の状況に応じて食べやすい形状に変える等の工夫をし、栄養を摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には一部介助及び、全介助にて行っている。歯ブラシでの磨きが難しい方は、スポンジブラシ等を使用して口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるよう利用者の動きや表情からサインを読み取って促している。排泄表や時間に拘らず、個人の排泄状況を把握して適切な支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調や身体状況、排泄パターンを把握する。また、薬だけに頼ることのないよう食べ物での工夫や運動、入浴で身体を温める、マッサージをすることで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも本人のタイミングで入浴でき、好きな入浴剤を選んで、ゆっくり楽しんでいただける環境がある。同法人内にある大浴場や機械浴も利用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事活動等で身体を動かし、メリハリのある生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠に繋げている。眠れなければ一緒にお茶を飲み、気持ちを聞いたり会話をすることで、安心して眠れるよう寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使用目的や重要性を職員全員が改めて認識し、都度服薬支援の方法を確認して互いに注意し合っている。また、薬に変更があった場合は共有し、その後の変化に気付くよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とすることが表現でき、役立てることを楽しみや活力に繋げている。外に出られない分、室内やバルコニーで楽しめることを探し、食べたい物を作って食べる等、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、自粛しながらの生活となっているが、コロナが落ち着いたら行きたい所へいけるよう日々の会話の中からやりたいことや目的、思い等を聞いて希望に添えるよう把握している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が金銭を所持して必要に応じて支払うことが当たり前での行為と捉え、外出時には家族からお小遣いを預かり、買い物を楽しめるように支援していた(コロナ以前)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談して協力を得ながら、電話や手紙等、その方ができる方法でやり取りが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外はオープンフロアで好きな音楽を流したり、テレビを見たり、くつろげる空間づくりに努めている。また、気温に応じて随時、施設内の温度・湿度調節を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のその日のやりたいこと等、状況に合わせた空間配置をしている。利用者が1階と2階を往来することで気の合う者同士が時間を共有することができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具や若い頃の写真等、思い出のある物を置いて落ち着ける空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい、取り出しやすい等、住人目線で家具や物品の配置をし、安全に配慮した生活導線の確保に努めている。また、利用者自身が換気やアルコール消毒をする等、感染予防にも努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500774		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウスごらく		
所在地	愛知県名古屋市名東区極楽二丁目232番地		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	令和3年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2371500774-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2371500774-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和3年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人尊重した暮らしができるように思いや意向の把握に努め、自分らしく自由でのびのびと生活ができ、利用者主体の生活ができるように支援しています。  
 家庭的な雰囲気の中で、職員一人一人が利用者と生活を共にしていることを意識してゆっくりと関わりを持つようにし、言葉にならない声を拾えるように努め、居心地の良い温かい生活や安心、安全な生活が送れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常支援の中で常に基本理念(方針)を意識し、自分たちの言動一つ一つが理念に沿ったものなのか互いに確認し合いながら共通認識となるよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外掃除やゴミ出し、散歩等の外出時に率先して挨拶をし、職員はその仲介をして顔馴染みの関係性を構築している。道に迷った利用者を近所の方が事業所まで送ってくださったこともあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外壁に「認知症ケアについて何でもご相談ください！」という看板を設置したことにより、地域の方の訪問や問い合わせが増えた。気軽に話ができる相談場所となれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、電話連絡や書面にて開催している。活動報告や意見交換と共に2ヶ月ごとに「目標達成計画」の進捗もあわせて情報共有し、レベルアップに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや民生委員と定期的に連絡を取り、協力関係を築いている。現場の状況や取り組みについて伝え、時には要望を出している。また、こちらが力になれることがないか情報共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開かれた生活環境を謳っており、自由に出て行ける環境づくりをしている(コロナ禍の為、散歩程度)。利用者の人権を守ることを基本とし、何が拘束になるか具体的に話し合い、職員間の意識を統一している。言葉一つ一つを大切にしてお互いに当たるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りや話し合いの場を設け、普段何気なく行っている関わりが虐待に当たるか否かを話し合い、ヒヤリハットの活動を積極的に行い見過ごし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修等で学ぶことができる。利用者の状況に合わせ、必要なものを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時等は個別に面談をし、理解や納得を得よう努めている。また、随時不安や疑問点の解決ができるような間柄を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でこちらから積極的に話ができる機会をつくり、気軽に相談し合える関係性づくりを大切にしている。そこからサービスの質の確保と向上に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員を気に掛け、話がしやすい環境づくりに努めている。難しいことであれば納得してもらえよう話をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の取り組み姿勢等、努力を評価し、向上心に繋げている。勤務形態も無理することのないよう個々の様子や状況を見ながら反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握し、課題に沿って他事業所への研修を行っている。自施設に限らず様々な人と問題を共有することで感性を養っている。また、立場や経験に応じた外部研修の機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として積極的に全国の同業者との交流機会を職員に推進し、広い視野や見識を得ることでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心していただけるよう気持ちを受け留め、共に考えて悩みに向き合っている。その積み重ねにより、信頼関係を築き、話し易い関係性を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居申し込みの面談時にじっくり時間を掛けて話に耳を傾け、可能な限り家族の要望を形にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と情報を共有し、しっかりと思いを受け留め、必要な支援を見極めていく。また、必要に応じて他の介護サービスについての説明や提案をすることで様々な選択肢の中から家族と共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や他利用者を含め、生活を共にする家族のような存在と位置づけ、互いに支え合って意見を言い合い、同じ立場で生活をしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には職員全員で明るく元気に迎え入れ、本人と家族が安心して過ごせる空間づくりをしている。面会制限がある時には、ガラス越しで顔を合わせたり、テレビ電話を繋いだりしながら家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外部の人との関わりが難しくなっている中でも本人が忘れてしまわないよう、利用者に寄り添って昔話を聞いている。また、同法人の他ホームの利用者との関係も継続できるよう感染対策をしたうえで交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や利用者同士の関係性を把握し、互いが自然と相談しながら助け合える環境づくりに努めている。揉め事がある時には悪い印象で終わることのないよう職員が仲立ちし、関係性の修復にも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時に限らずサービスが終了しても、築いてきた関係性を大切に、気軽に立ち寄って話や相談ができるよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動には全て意味があると考え、常に疑問を持ち、本人の本心はどこにあるのか見極め、職員間で話し合いをし、検討を繰り返し行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報に加え、入居後の本人や家族との対話から多くの情報を得ることでその人らしさを知り、振り返ることができる状況をつくっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルに合わせた支援に努めている。その中で利用者同士できることを探し、認め合い、その方の有する力が発揮できる環境をつくっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化や気付いたこと等の情報や意見を出し合い、アセスメントやモニタリングを行い、現状把握して介護計画に反映させている。介護計画に沿った支援の手法を増やしていけるよう職員は常に考え、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や職員間のノートに日々の様子等を記録し、日々変化していく細かな状況の把握と情報共有に努めている。統一された支援をしていけるよう話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応じ、ショートステイや共用型デイサービスの受け入れを積極的に行っている。また、通院等による外出の同行支援や理美容、歯科、マッサージ等の様々な支援やサービスが利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、地域との直接的な関わりが絶たれている。散歩はマスクを着用し、予防しながら実践している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診は月に2回あり、24時間を通して連携体制ができています。また、本人や家族からの希望があるかかりつけ医との情報共有にも努め、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の検診時含め、電話での状況報告や連絡、相談が常にでき、利用者から医師や看護師に直接相談できるよう仲立ちもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為、面会ができず、本人と直接話をすることは出来ないが、家族や病院との連絡をこまめに取って情報共有し、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び、状態変化時に重度化した場合の意向確認を行っている。看取り介護を特別なことと考えず、最期の時までその人らしさを形にすることができるよう日々思いを引き出す関わりに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や書面で学び得たものと現場での経験により、より良い方法を導き出して対応している。次に繋がる判断力や実践力を身につけられるよう常に振り返りをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定し、年2回避難訓練を実施している。自ら避難できるよう動線や避難場所の確認等、主体性を持ち、取り組んでいる。災害時には全国ネットワークの仲間の支援を受けられる体制づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した細かな配慮に心掛けている。常に一人の人として扱い、支援が作業とならないよう職員同士で振り返り、確認合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員だけの関係だけでなく、利用者同士の関係性構築に尽力し、自由に思いや意見を言い合える雰囲気づくりに繋げている。また、自己決定できるよう選択方法にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースと生活を大切にしつつ自然と他者との活動が生まれる環境づくりに努めている。日々の生活から共同生活をしていることを意識付け、自分らしい暮らしにプラスα、他者と共に生活することに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや拘りを大切に、着替え等も自己決定できるよう支援している。訪問理美容では美容師さんとの馴染みの関係性も生まれ、希望等も話し易い状況がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今ある食材で何を作るか、どんな味付けがいいか話し合いながら調理している。また、食べたい物があれば買い物に行き作り、最初から最後まで利用者主体で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の時はもちろん、その他でも利用者同士が薦め合って水分を摂っている。また、利用者のその時の状況に応じて食べやすい形状に変える等の工夫をし、栄養を摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には一部介助及び、全介助にて行っている。歯ブラシでの磨きが難しい方は、スポンジブラシ等を使用して口腔内の清潔に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるよう利用者の動きや表情からサインを読み取って促している。排泄表や時間に拘らず、個人の排泄状況を把握して適切な支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調や身体状況、排泄パターンを把握する。また、薬だけに頼ることのないよう食べ物での工夫や運動、入浴で身体を温める、マッサージをすることで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも本人のタイミングで入浴でき、好きな入浴剤を選んで、ゆっくり楽しんでいただける環境がある。同法人内にある大浴場や機械浴も利用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事活動等で身体を動かし、メリハリのある生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠に繋げている。眠れなければ一緒にお茶を飲み、気持ちを聞いたり会話をすることで、安心して眠れるよう寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使用目的や重要性を職員全員が改めて認識し、都度服薬支援の方法を確認して互いに注意し合っている。また、薬に変更があった場合は共有し、その後の変化に気付くよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とすることが表現でき、役立てることを楽しみや活力に繋げている。外に出られない分、室内やバルコニーで楽しめることを探し、食べたい物を作って食べる等、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、自粛しながらの生活となっているが、コロナが落ち着いたら行きたい所へいけるよう日々の会話の中からやりたいことや目的、思い等を聞いて希望に添えるよう把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が金銭を所持して必要に応じて支払うことが当たり前での行為と捉え、外出時には家族からお小遣いを預かり、買い物を楽しめるように支援していた(コロナ以前)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談して協力を得ながら、電話や手紙等、その方ができる方法でやり取りが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外はオープンフロアで好きな音楽を流したり、テレビを見たり、くつろげる空間づくりに努めている。また、気温に応じて随時、施設内の温度・湿度調節を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のその日のやりたいこと等、状況に合わせた空間配置をしている。利用者が1階と2階を往来することで気の合う者同士が時間を共有することができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具や若い頃の写真等、思い出のある物を置いて落ち着ける空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい、取り出しやすい等、住人目線で家具や物品の配置をし、安全に配慮した生活導線の確保に努めている。また、利用者自身が換気やアルコール消毒をする等、感染予防にも努めている。		